

新聞

新聞の伝える情報は、学校の教科の枠をこえた横断的・総合的なものであり、また、時間的・地理的な要因も持つ。新聞を読んでものごとを深く考えることによって、子どもたちの「問題発見・解決」「情報活用・分析」「批判的に物事を見る眼」などの力が育つ。

また、調べ学習やテーマ学習としての新聞づくりは、前述のような学習者の力を育むことに加え、「表現伝達能力」が高まる。さらに、学習者が新聞というひとつの作品を仕上げていくなかで、「自ら学ぶこと」の喜びを知り、完成時における達成感と充実感を味わうことができる手法として優れている。

新聞切り抜き

■注目した記事探し

1日分の新聞全部に目を通し、注目した記事を探し出し、注目した理由を書く。小学生では写真を使い同様のことを行う。

■各新聞記事の比較

同じ内容を扱った記事を複数の新聞から見つけだし、見出しや写真、記事の大きさ、記事の書かれた月日などの違いを発見する。小学生では、同じ記事で取り上げている写真で同様のことが可能。新聞は最近の各紙1週間くらいの分を用意しておく必要がある。

■世界との結びつき探し

地元新聞の中から地域に関する記事を探し出し、その地域だけに関係するものと、その地域以外（県外、海外）に関係するものに分類し、地域と世界の結びつきを発見する。

■テーマに関係する記事探し

テーマに関する新聞記事を集め、ノート見開きの左側にその記事を貼り、右側にコメントを書いていくことによって、資料を収集していく。

新聞づくり

新聞づくりはテーマを決めて作る「テーマ新聞」や、歴史的な出来事や人物を取り上げた「歴史新聞」、10年後20年後の地域（世界）の出来事を予想して書く「未来新聞」がある。

1. 取材（資料の検索）する。

テーマに関する文献や資料を、図書館やインターネットなどで調べる。その際文献や資料の名前を明記しておく。

2. 記事を書く。

5W1Hを踏まえ、取り上げた出来事を新聞独特の書き方（逆ピラミッド型の文章：結→起→承→転）にまとめ見出しをつける。新聞は<転>の箇所に記事の補足説明をいくらでも追加できるし、逆にスペースがなければ、ここからカットしていけるようになっている。

3. 編集する。

パソコン等を活用し、新聞を編集する。

4. 発表と評価

子どもたち自身が、見出し、内容など項目別、まとめ方・資料収集など観点別に自己評価をする。また出来あがった新聞をクラスで発表して相互に評価し合う。

発行日: 出来事が起こった翌日とする

題号: 新聞名

見出し: 紙面が知らせようとしている出来事の核心を表現したもの

論説: 出来事の背景、意義や影響などについて論じた文

用語や人物の解説: 出来事や人物をより理解しやすくするためのもの

絵と絵解き: 絵(写真)と写真の説明

参考文献: 出来事を書くのに使った書籍や資料名(これは実際の新聞にはないものである)

コラム: 世の中の出来事(世相)や季節のテーマを扱った短い文章



NIEガイドブック 総合的な学習編 (財団法人日本新聞教育文化財団発行)